

	利用人数																			
	利用日数																			
	延べ利用 室数																			

- (注) 1 事項欄には、地域計画とともに作成した利用計画において使用した指標を記述する。
 2 調査年度における実績が計画未済である場合は、下段に理由及び改善策について記述すること。
 3 目標年度の報告において実績が計画を大幅に下回る場合は、第5の4の(1)に基づき作成した改善計画及び指導等の状況について添付して報告すること。
 4 備考欄には、利用計画、利用実績それぞれの算出根拠を記載すること。
 5 都市農村交流を目的とする施設の場合は、「月別利用実績」欄の実績計の横に()書きで都市農村交流に関する実績を内数で記入し、利用率の算出は()書きの値を使用する。

ウ 施策の効果

(コメント)
 地形図作成の実施により事業計画書作成にあたり基礎成果として十分な活用効果があった。また、農用地等集団化事業の実施により従前地の把握と換地に関する地域の合意形成等を図ることができた。

※ 施策の内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

2 指標の達成状況に関する評価

	指標	目標値A	実績B		備考
必須	基盤整備事業の着手	2	3	100%	H21着手
地域					

(コメント) ※目標が未達成となった指標については、その理由を記載
 平成20年度の事業着手(経営体育成基盤整備事業)を目指し、本事業を実施し事業計画書を作成すると共に事業推進を図ってきたが、事業計画に関し地元調整に日時を要したことから事業着手には1年延伸し平成21年度着手となったものである。

3 目標の達成状況に関する評価

(コメント)
 平成20年度の事業着手を目指していたが、計画に関する地元調整等により1年遅れの平成21年度事業着手となったものであるが、事業着手という目標は100%達成することが出来た。

4 総合評価

(コメント)
 目標としていた平成20年度事業着手は実現できなかったが、地元調整を重ねたことから概ね100%(99%)の同意を得て1年遅れの平成21年度事業着手が可能となったことから、本事業を実施した効果は十分に発揮された認識している。

(都道府県の意見)

(コメント)
 目標としていた平成20年度事業着手ではなかったものの、概ね100%(99%)の同意を得て1年遅れの平成21年度事業着手が実現したことから、本事業を実施した効果は十分に発揮されたものと思われる。